

【主担当部局：農林水産部】

県民の皆さんとめざす姿（令和5年度末での到達目標）

さまざまな主体によって創出された県産農林水産物の魅力を生かした新たな価値が、多様な商品・サービスとして広く提供されることで、県民の皆さんの豊かな暮らしや「持続可能なもうかる農林水産業」の実現につながっています。

主指標						
目標項目	令和元年度	2年度		3年度	4年度	5年度
	現状値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
「みえフードイノベーション」や新たなブランド認定から生み出される県内事業者の商品等の売上額（累計）						30億円
	4億円					
目標項目の説明と令和2年度目標値の考え方						
目標項目の説明	農林水産資源を高付加価値化する「みえフードイノベーションプロジェクト」から生み出された県内事業者の商品等の売上額および新たに「三重ブランド」に認定された事業者の商品等の売上額の合計					
2年度目標値の考え方						

副指標						
目標項目	令和元年度	2年度		3年度	4年度	5年度
	現状値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
企業等と連携したスマート農林水産業の実践数（累計）						80件
	10件					
県産農林水産物のブランド力向上に取り組む事業者数（累計）						57者
	9者 （見込）					
農林水産業の国際認証等を活用した新たなマッチングによる取引件数（累計）						85件
	10件					

現状と課題

- ①食のグローバル化の進展をはじめ、東京 2020 オリンピック・パラリンピックを契機とした新たな需要やインバウンドの拡大、スマート技術の普及など、農林水産業を取り巻く状況が大きく変化する中、農林水産物などの地域資源を活用した競争力の高い商品・サービスの開発や新たな市場の開拓等を、分野横断的なイノベーションの促進や先端技術の導入により加速する必要があります。
- ②農林水産物の効率的な生産や品質向上、利用拡大に向けて、さまざまな知識・情報・データの共有や組み合わせなどを進め、農林水産技術の研究開発に取り組むとともに、開発した技術を生産現場等へ移転する必要があります。
- ③伊勢志摩サミットや東京 2020 オリンピック・パラリンピックを契機としたプロモーションの実施により、「三重ブランド」をはじめとするストーリー性のある県産農林水産物への関心・評価が高まっていることから、これらが有する本質的な価値に着目したブランド力の向上と消費者等に的確に魅力を伝えていく取組を強化する必要があります。
- ④東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの食材供給やその先の取引拡大に向けて、引き続き、関係者が一丸となってGAP等認証取得を推進するとともに、供給体制やプロモーションの強化等を図り、認証取得をビジネスチャンスの拡大につなげる必要があります。

令和 2 年度 の 取 組 方 向

- ①「みえフードイノベーションネットワーク」の取組により、会員同士の交流促進や特徴のある県産農林水産物の素材提案などを行うことで、新たなプロジェクトの創出や商品化に向けた取組を進めます。また、6次産業化支援については、引き続き、6次産業化サポートセンターを設置し、現場の課題やニーズに応じた研修会や個別支援を行うとともに、売上額の増加を図るため、販路拡大に取り組む事業者へのフォローアップの充実を図ります。
- ②農林水産物の効率的な生産や品質向上を図るとともに、産学官連携によるデータプラットフォームを活用しながら、競争力の高い商品・サービスの開発やデータをフル活用したスマート農林水産業の促進に取り組めます。また、農畜林水産分野の各研究所が主体となり、さまざまな知識・情報・データの共有や組み合わせなどを進め、生産現場における課題解決や商品化に必要な技術の研究開発に取り組むとともに、実証研究を通じて得られた成果の現場への技術移転に取り組めます。
- ③県産農林水産物のブランド力向上を図るため、ブランド戦略の作成や消費者等に共感を生む「効果的な伝え方」の習得等を支援するとともに、「三重ブランド」の情報発信力を強化するため、PRツール等の利用促進や、認定事業者の連携による情報発信機会の創出等により、首都圏をはじめ県民への認知度向上を図ります。また、県民の皆さんが食に対する適切な判断力を身につけることができるように「第3次三重県食育推進計画」に基づく食育推進を、市町等関係機関と連携して取り組んでいきます。
- ④東京 2020 大会の開催年度であり、同大会終了後に販路拡大や生産体制の充実などのレガシーを次世代に継承していくため、引き続き、県産食材の戦略的なプロモーションを行っていきます。また、GAP等の認証取得と活用を促進するとともに、国内外における販路拡大等に向けた生産者と事業者のマッチングなどに取り組めます。

主な事業

①みえフードイノベーション総合推進事業

【基本事業名：31101 新価値創出と戦略的プロモーションの展開】

予算額：(R1) 76,669千円 → (R2) 72,530千円

事業概要：「みえフードイノベーション」のさらなる拡大を図るとともに、ネットワーク活動を通じて県産農林水産物の活用促進に取り組みます。また、6次産業化サポートセンターにより、6次産業化に取り組む意欲ある生産者等への支援を実施します。

②(新)みえフードイノベーションスイッチ促進事業

【基本事業名：31101 新価値創出と戦略的プロモーションの展開】

予算額：(R1) ー 千円 → (R2) 3,000千円

事業概要：企業等と連携した食に関するさまざまなデータの収集・分析をもとに、県民や三重県を訪れる旅行者等の多様なニーズを把握し、新たな商品やサービスの開発を行います。

③(新)みえスマートフードチェーン促進事業

【基本事業名：31102 農林水産技術の研究開発と移転】

予算額：(R1) ー 千円 → (R2) 9,000千円

事業概要：生産現場から加工、流通、販売にいたる、さまざまな事業者が連携して、みえの農業の特色を生かした、データサイエンスに基づくスマートフードチェーンシステムの構築を図ります。

④植物工場実証パイロット事業【基本事業名：31102 農林水産技術の研究開発と移転】

予算額：(R1) 9,788千円 → (R2) 7,943千円

事業概要：農業研究所に設置した太陽光利用型植物工場において、県内野菜生産額の多いトマト、イチゴについて、低コスト化、周年栽培の実証を行うとともに、実証技術を普及・拡大させるための人材育成に取り組みます。

⑤戦略的ブランド化推進事業【基本事業名：31103 ブランド力向上の推進】

予算額：(R1) 2,868千円 → (R2) 2,337千円

事業概要：特に優れた県産品とその事業者を三重ブランドとして認定し情報発信するとともに、ブランド化を進める人材の育成に取り組み、県産農林水産物のイメージアップとブランド力向上を図ります。

⑥(新)みえの農林水産情報発信スマート化事業【基本事業名：31103 ブランド力向上の推進】

予算額：(R1) ー 千円 → (R2) 8,000千円

事業概要：県産農林水産物のデータの見える化と情報発信のスマート化を推進することにより、みえの食が有する本質的な価値への共感を呼び込み、県産農林水産物を活用した商品およびサービスの付加価値向上を図ります。

東京オリ・パラを契機としたみえの食材イノベーション事業

【基本事業名：31104 農林水産業の国際認証取得の促進と活用】

予算額：(R1) 4,196千円 (R2) 2,551千円

事業概要：東京2020大会の開催に合わせた首都圏でのイベント等において、食材情報の発信を行うことで、県産食材の認知度を上げ恒常的な取引につなげるとともに、みえの食を通じた、とこわか国体・とこわか大会の成功に向けた機運醸成を図ります。

「広がれGAPの輪」推進支援事業

【基本事業名：31104 農林水産業の国際認証取得の促進と活用】

予算額：(R1) 22,452千円 (R2) 10,622千円

事業概要：GAPの取組の拡大を図るため、指導員等が中心となり国際水準GAPの実践や認証取得の支援を行うとともに、GAP農産物の認知度向上や販売促進のためのフェア開催などに取り組みます。